

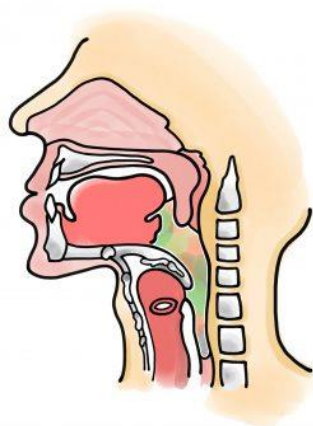
リハビリテーションに関する 様々な取り組み導入機器など

2021年8月時点

1. 嚥下（飲み込み）障害への検査、治療機器

① 嚥下造影検査（VF）の実施

バリウムを含む食品を飲み込む場面をレントゲンで透視して、嚥下障害の程度を確認します。



② 嚥下内視鏡検査（VE）の実施

鼻から3mm程度の内視鏡を挿入し、飲み込みの状態を確認します。



ペンタックス HP より

③ 嚥下用電気刺激装置の使用

のどに電極を貼り、直接飲み込みに関係する神経へ電気刺激（干渉波）を行います。

当院の使用機器は嚥下治療専用の「ジェントルスティム」です。使用時の違和感が少ないタイプです。



2. 高精度体成分分析装置 (In Body S10) による 筋肉量などの測定と栄養管理

筋肉量や水分量を正確に測定できるので、筋力低下の程度や変化を数値化することができます。筋力がつきやすい栄養素の提供など、管理栄養士と連携して食事の管理も行っています。寝たままの測定が可能な機器です。



インボディ HP より

3. 機能的電気刺激装置の使用

主に麻痺の改善目的で「OG技研・I V E S (アイビス)」を使用しています。

麻痺部分の弱い動きをセンサーが感知して、電気刺激で運動をアシストすることでリハビリ効果を高めます。



OG技研HPより

4. 多彩な車いす・歩行器を用意

普通型車いす・チルトリクライニング車いす・各種歩行器は新しい年式の様々なタイプを導入。定期的に新型の導入を行っています。所有台数は60台以上。患者様の費用負担はありません。



5. 歩行用装具

短時間で調整が可能なゲートイノベーションなど、リハビリ時に患者様の体にフィットしやすい装具を導入しています。



パシフィックサプライHPより

6. ボツリヌス療法

脳梗塞などの脳血管障害生じた筋肉のつっぱり（痙縮）を、ボツリヌストキシンというタンパク質を筋肉に注射することでやわらげる治療です。

効果が持続する3～4カ月の間に集中的に関節を動かすことで可動範囲を広げます。



7. 様々な活動やレクリエーション

園芸、調理、お茶会、などの活動やクリスマス会などの行事イベントを定期的に行っています。

※感染症の流行期は行いません。



クリスマス会や節分の様子

患者様の回復を最大限に高める為に、様々な機器や治療法を導入しています。

個別のリハビリだけでなく、季節感や交流を重視した活動も定期的を実施しています。

※集団での活動は、感染症流行期には行いません。また、使用する機器の消毒は徹底しています。